

A-66 ビタミンC大量投与の乳成分に及ぼす影響 —やぎを被検動物として—

東京農大農 渡辺 義雄
西郷 光彦
○中村カホル
青木たき子
沢村 経子

1. 私共はかねてよりビタミンC大量投与の栄養像へ及ぼす影響を懸念し、手はじめに授乳婦において、その大量内服が母乳成分にどのような影響をもたらすのかを追究した。その結果母乳中のビタミンC量の増加とあいまって、アミノ態窒素量が減少することを認めたが給餌成分の規制に若干の不安があったので今回はこの追試の意味でやぎを用いて同様の実験を行なった。

2. すなわち分娩後1カ月経過したやぎを用いて「標準食」「標準食+ビタミンC 1000mg」「標準食+アミノ酸剤 10錠」「標準食+ビタミンC 1000mg+アミノ酸剤 10錠」を投与し、各々の場合の投与2時間後、4時間後の乳中のビタミンC量、粗たんぱく質量、アミノ態窒素量及び遊離アミノ酸パターンを測定した。

3. ビタミンCの投与によって粗たんぱく質量は約6%減少し、アミノ態窒素量においては30%減少し、同時にアミノ酸剤を投与すると殆んど正常値に回復した。このビタミンCの粗たんぱく質量、アミノ態窒素量におよぼす影響は、さきの授乳婦による試験とほぼ一致したのでこの動向についてはほぼ確定的なものと推定される。但しこの間のメカニズムは不明であるので今後引続いて検討を加えるべき課題としたい。